

エスペラントは心の国境を消すことばです

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

Heroldo de HEL

N-ro 185

Septembro 2019

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- ・表紙、Enhavo/目次 P. 1
- ・市民活動団体支援～しみサポマルシェ～/後藤純子 P.2
- ・Mia impresoj pri la Somera Kurskunveno de EPA P.3
/Sapporo/EPA 夏期合宿の感想/柳 幸三郎(S-ro Janagi)
- ・La Tago de Samarkando 2019/2019 年で開基 2760 年... P.5
のサマルカンド……/Anatolij Ionesov
- ・Esp-ista bardo Mikaelo .../エスペラントコンサート…… P.7
/後藤純子
- ・Letero de uzbeka junulo .../北海道在住ウズベク青年の… P.8
- ・Esperanta frazo aperinta en P.9
” Semajna Gazeto Vendredo”----/「週刊金曜日」に出ている
エスペラントみだし…/HOŝIDA Acuŝi
- ・配属将校・鈴木教官……/Oficiro-instruisto, .../HOŝIDA P.10
- ・Internacia Tago .. Gepatra Lingvo..(1)/国際先住民族…… P.13
母語の日 (1) /H.OKOJAMA, HOŝIDA A.
- ・Danke ricevitaj (星田淳扱い--読みたい方はご連絡ください) P.16
- ・Protokolo de la 6a Komitato Kunsido de HEL/Kasjaro2019 P.18.
/2019 年度第 6 回北海道エスペラント連盟委員会議事録
- ・[編集後記/Redaktanto parolas] P.19

市民活動団体支援～しみサポマルシェ～

- 市民活動団体の成果発表の支援として、不特定多数の方が市民活動団体の取り組み及び成果について知る事が出来る場を創る-ことを目的に一昨年で終わったエルプラ祭りの代わりに、札幌市市民活動サポートセンター主催でしみサポマルシェが行われます。

HEL も、この好機を逃さず、どっこい生きてる ESPERANTO の宣伝のために出展します。応援よろしくお願ひします！

- 日時：2019年9月28日（土）11：～14：00
- 場所：札幌エルプラザ1階情報センター、エントランス、南側正面玄関ポーチ周辺、HEL のブースは、1階エレベーターの近くです。
- 出展物予定：今年の世界大会（フィンランド）と、アジア大会（ベトナム）の写真。エスペラントとは？分かり易く書いた説明書。

エルプラザでお会いしましょう！

（文責：後藤純子）

Mia impresoj pri la Somera Kurskunveno de EPA/Sapporo
EPA 夏期合宿の感想

: 柳 幸三郎 (S-ro Janagi)

EPA 夏期合宿の感想をお送りします。

日本文を添えたのはわたしのためですので、消してもよいのでは
と思います (参考のために消しませんでした — La Red.)

まず毎年夏の研修でお世話になっている柴田医院に感謝します。
Unue mi volas danki Ŝibatan Klinikon pro prizorgi por la
Somera Kurskunveno.

お陰様で会話クラスに参加しすることができました。
Danke al vi, ni povis partopreni konversacian klason.

ソウル空港からの直行便がない不便にもかかわらず
来訪し、私たちの講師を務められた suno さんに感謝します。
Malgraŭ la ĝeno, ke ne ekzistas rekta flugo de
Seoul-Flughaveno S-ro Suno venis kiel gvidanto al Sapporo.
Ja dankinde!

さすが講師の suno さんはベテランで、思いのままに口からエス
ペラントが出てくる彼には感心しました。
Kiel atendite, la instruisto S-ro Suno estas veterano,
mi estis impresita, kiel Esperanto eliris nature el lia buŝo.

エスペラントは世界共通語であるとしても、両国共通の話題を見

つけるのは彼にも容易ではないでしょうに、ありがとうございました。

Eĉ se Esperanto estas universala lingvo, estis malfacile por ni trovi komunan temon. Sed helpe de Suno mi apenaŭ povis. Koran dankon por lia laboro.

今回は韓国からの4名の参加者があって、札幌にいながら、少し外国経験をすることができました。

Ĉi-foje ni havis kunvenon kun 4 partoprenantoj el Koreio, Dank' al tio ni povis havi iomete eksterlandan sperton en Sapporo.

次にあの方々とお会いしたら、何を尋ねて話題を持ち出せるか。Se mi renkontos ilin la venontan fojon, kion mi povos demandi por eltiri novan temon?

私は相手の立場を考えた仮想会話訓練も日頃しておこうと考えました。

Mi volas havi virtualan konversacian trejnadon al mi, konsiderante la situacion de la interparolanto.

内容ある会話を交わすために、楽しかったとか、辛かったとか、相手の気持ちや言葉を引き出すために、もっともっと注意を向けたいと思わされました。

Por havi enhavoriĉan interparoladon, mi volas pli atenti por eltiri sentojn kaj vortojn de la interparolanto, ekzemple ĉu li sentas sin feliĉa aŭ dolora, k. c.

La Tago de Samarkando 2019
LA INTERNACIAJ LETERTAGOJ – 2019

2019 年で開基 2760 年の サマルカンドへの賀状をどうぞ

Anatolij Ionesov

(Noto de Red./要旨説明)

かつてシルクロードの要衝として栄えたサマルカンドは今ウズベキスタン (ウズベク共和国) 最大の観光都市となり青を基調としたイスラム建築が並ぶ「青の都」として注目され、ユネスコの世界遺産になっています。10月18日の開基記念日への手紙を募集しています。

手紙は冊子にまとめて全参加者に送られます。締め切りは10月1日だが若干の遅れは許容されるもよう。宛先は

(Anatolij Ionesov

Enciklopedia projekto "Samarkandiana"

P.O. Box 76, UZ-140100 Samarkando

Uzbekio

Retpoŝto: imps86@yahoo.com

です。

"VORTO PRI SAMARKANDO: LA URBO PRI KIU ONI ŜATAS
PENSI, SONGI KAJ PAROLI"

Karaj amikoj, kolegoj, samideanoj,

Baldaŭ denove venos la signifoplena dato kaj festa okazaĵo por la urbo, pri kiu multaj loĝantoj de nia planedo ŝatas pensi, memori, revi kaj paroli. La 18-a de oktobro la Tago de Samarkando. La evento celas refokusigi nian rigardon je alloga belo, unika aromo kaj arkitektura dekorado de la urbo. Tradicie, estas invitataj kontribui ĉiuj, por kiuj Samarkando estas pli ol nura urbo. Por kiuj

ĝi estas vivanta memoro, emociplena historio, signifa malkovro, amdeklaro, rendevuejo kaj eĉ sorto.

Ĉiuj, kiuj persone spertis la mirindaĵojn de Samarkando en realo, ĉu de malproksime, ĉu estinte tuj apude aŭ eĉ nur en siaj pensoj aŭ songoj, konservis neforviŝeblajn impresojn pri la grandioza historia heredaĵo kaj neordinara nuntempa kulturo de la mondfama urbo.

Kaj ĉiujare venas la Tago, kiam ni esperas, ke almenaŭ por momento, vi transformos viajn pensojn kaj sentojn en ion kreivan por el la fundo de via animo esprimi – naskitajn fare de via koro kaj enstampiĝintajn en via menso – rememorojn pri tiu ĉi speciala loko. Tio estas eblo por dividi viajn travivaĵojn kaj sentojn, por konigi viajn specialajn spertojn kaj tra tiu ĉi transdono denove fari Samarkandon rendevuejo por homoj kaj kulturoj, tradicioj kaj novigoj, por Oriento kaj Okcidento, Sudo kaj Nordo. Ja ĉiam tiel estis en la pasinteco kaj estu tiel ankaŭ en la estonteco!

Eble por iuj, ununura vorto sufiĉos por esprimi tiun ĉi vizion: iuj skribos personan leteron al Samarkando aŭ verkos saluton forme de poemo, kanto, desegnaĵo; aŭ komunikos siajn bondezirojn aŭ songojn por la estonteco de la urbo... Kompreneble, ĉio dirota kaj verkota pliproksimigos nin unu al la alia, unuigos nin ĉirkaŭ la eternaj valoroj, pliigos niajn konojn, evoluigos spertojn, plifortigos pacon kaj harmonion – ĉion, kio ebligis al Samarkando atingi la majestecon kaj por ĉiam eniri la historion.

Bonvolu sendi viajn reeĥojn, gratulmesaĝojn kaj alispecajn tiutemajn kontribuojn, laŭeble, ĝis la 1-a de oktobro 2019 al imps86@yahoo.com, kvankam la materialoj iutempe estos akceptataj ankaŭ post tiu ĉi dato.

La plej interesaj kontribuoj estos publikigitaj en nialanda gazetaro kaj en la venonta eldono de “Konciza Enciklopedio de Eksterlanda Samarkandiana: Kulturo Unuiganta la Mondon”.

ĈIU ricevita mesaĝo estos danke agnoskita kaj la raporto pri la evento estos sendita al ĈIUJ partoprenantoj.

Atendante vian baldaŭan reeĥon, ni antaŭdankas pro viaj asisto kaj eventuala kunlaboro.

Amikajn bondezirojn el 2760-jara Samarkando, la urbo de Monda Heredaĵo de Unesko,

Anatolij Ionesov

Enciklopedia projekto “Samarkandiana”

P.O. Box 76, UZ-140100 Samarkando

Uzbekio

Retpoŝto:imps86@yahoo.com

Esp-ista bardo Mikaelo Bronŝtejn ludos en Sapporo

エスペラントコンサートへのお誘い

文責：後藤純子

11月3日（日）午後1時半～4時

札幌エルプラザ3階音楽室1番にて

11月4日（月）の北海道エスペラント大会で講演して下さるロシアのミカエロ・ブロンシュテインさんは、音楽が得意です。多くのエスペラントの歌を作詞、作曲しておられます。

ギター演奏しながら、ロシアの吟遊詩人のように歌われるそうです。（埼玉で行われる日本エスペラント大会でも演奏される予定）。

エスペランチストは勿論、エスペランチストでない友人も、ご家族、お孫さん達も、皆さん、お誘い合わせて、来てくださーい！

Letero de uzbekaj junulo en Hokkajdo

北海道在住ウズベク青年の手紙 (9月3日付道新への投書)

HOŠIDA Acuŝi

Lastatempe sur nialoka j^urnalo mi legis leteron de uzbekaj junulo nun lernanta la japanan lingvon en Hokkajdo, Japanio. Li trovis, ke kelkaj japanaj kutimoj similas al uzbekaj kutimoj.

2019.9.3 道新

性格や習慣 日本と共通点

留学生 ラヒマタリエヴァ・

ザリファホン 26

(上川管内東川町)

ヨコレートとあめ玉をまきます。

東川に来たころ、新生児の誕生

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

私は6月から東川の日本語学校の椅子」プロジェクトについて聞き、とても驚きました。なぜならウズベキスタンにも同じような習慣があるからです。ウズベキスタンでは赤ちゃんにいすではなくて、ポプラの木を贈ります。その木は赤ちゃんの将来のためです。

Esperanta frazo aperinta en

"Semajna Gazeto Vendredo"

「週刊金曜日」に出ているエスペラントみだしについて

HOŠIDA Acuŝi

週刊金曜日の 7月26日号に 肯わぬものからの手紙

という見出しがあり その右側のローマ字文

Leteroj el la persono kiu ne konsento

はエスペラントらしいが、これでは意味不明瞭（不完全文）ですね。

kiu 以下の部分は 副文を予想させる形ですが これだけでは

(副)文になっていません。動詞がないからです。

文にとって 主語、動詞 は不可欠の要素ですから。

kiu ne konsento が kiu ne konsentas となれば

主語=kiu、動詞=konsentas がそろって

Leteroj el la persono kiu ne konsentas.

という文になり、意味は見出しの文

肯わぬものからの手紙 と一致します。

筆者の 山口泉さんは作家ですが、時々エスペラントの単語を

出していることがあります。ところが英語でエスペラントを解説してい

るサイトがあるようで、そこでは

> "persono kiu ne konsento" は "a person who does not consent"

と表示されているそうです。いい加減なことを書かれても困るな。

konsento (名詞) と konsentas (動詞) の区別も判らない人の解説でしょ

う。そんなサイトに気付いた方は教えてやってください。

山口泉さんは私の説明を理解されて、次の号から

> 肯わぬものからの手紙 Leteroj el la persono kiu ne konsentas

になっています。

配属将校・鈴木教官の敵性住民殺害報告

Oficiro-instruisto, kapitano Suzuki raportis
pri masakro de ĉinoj malamikemaj

HOŜIDA Acuŝi

昭和17年、私は 当時の(旧制)中学校に入ったが

学校では「学校教練」が必修科目だった。兵役が国民(男子)の義務だった時代。

学校には予備役の軍人(将校)が「配属将校」として派遣され、教練の教官をつとめていた。

二人いた教官のうち若いほう、鈴木大尉は厳しい人だった。

ちょっとした過ち、不注意も見逃さず、げんこつが飛ぶ。

彼に殴られなかった生徒はいなかったのではないか、

と思われる。しかし、問題をいい加減に済ますことのできない、まじめな人だった。

夏休みの臨海学校で

彼は「自分の体験した戦争」を話してくれた。

長い行軍のあと目的地に着く。

敵軍はいない。

休める。その夜

近くの村のあたりから花火がポンポンと上がる。

「なんだあれは？」「我々を

歓迎してくれてるんだ」

「そうかな」

村人たちも友好的な様子なので、我々も安心してつき合っていたのだが -----

En 1942 mie eniris tiaman mezlernejon. Tiam milita trejnado estis deviga leciono por knaboj-mezlernejanoj, ĉar militoservo estis devo de vira japano.

Ĉiu lernejo havis oficiro-instruisto(j)n por trejni lernantojn

El 2 oficiro-instruistoj la pli juna, kapitano Suzuki estis rigore severa. Li ne preteratentis eĉ etan eraron aŭ kulpon, kaj pugnobatis la kulpinton. Neniu el mia klasano etis sekura de lia pugno, mi pensas. Sed li estis sincera kaj ne povis preterlasi ĉion sen kontrolo.

En somerferioj ni havis apudmaran lernejon. Tie li parolis, Kion li spertis en milito en Ĉinio.

Post longa marŝo ni atingis Celatan lokon. Ne troviĝas mal-amika armeo. Ni povas ripozi!

Nokte levigis raketoj sinsekve el proksima vilaĝeto.

“Kio?” “Oni bonvenigas nin, eble”.

” Ĉu vere?”

Ŝajnis, ke la vilaĝanoj estas amikaj al ni, do ankaŭ ni povis Interrilati ilin amike, sed --

そのうちに、
花火の上がった次の日の
作戦行動で、敵の
待ち伏せ攻撃にあって死傷者を
出すことが、何度かあった。
「どうも変だ」「しらべろ！」
しらべてみると実態がわかってきた。

花火は暗号で、日本軍の行動、
兵力などを近くの山にいる
敵のゲリラに通報
するものだった。

しかもこれは部落ぐるみのスパイ
活動らしい。

この報告を受けて指揮官が出した
命令は「敵性住民はすべて処分せよ
(殺せ)」だった。

殺すのはわれわれの仕事になる。

おれが殺したうちの
一人、女だったが激しい口調でおれ
をにらみつけてののしった。
「鬼！」とでも言ったのだろうか。あの
形相、あの声、あの目、いつまでも
忘れられない ---

「住民皆殺し」は終わり、
その後は待ち伏せ攻撃でやられる
こともなくなり、任務を終わって
我々は生きて帰ることができた。
みんな、どう思う？

何のために戦争しているか、みんな、
聞いているだろう。「東洋平和の
ため、大東亜共栄圏建設のため--」、
その通り、
きれいな言葉が並んでいるな。

だけど、そんな言葉で戦争は
できない。戦争は
殺しあいだ。殺さねば
こちらが殺される。

Fojfoje okazis, ke ni
falas en enbuskon suferante
prihomajn damaĝojn,
sekvatage de la nokto,
kiam raketoj estis lanĉitaj.
“Strange!” “Esploru la aferon!”
Post esplorado klarigis la afero.

Raketoj estis ĉifraĵo, inform-
anta malamikajn gerilanojn en
proksima montaro pri niaj agadoj,
soldatnombro, k.a.

Tian spionadon plenumis
multaj vilaĝanoj, al ni ŝajnis.

Por nia raporto nia komand-
anto ordonis “Disponu(mortigu)
ĉiujn malamikemajn loĝantojn”.
Ni devis ekzekuti vilaĝanojn.

Unu virino el miaj mortigitoj
akre rigardis min kaj damnis min
kun furioza tono....., Ĉu ŝi kriis
“Diablo!”? Neniam mi povos
forgesi ŝiajn mienon, voĉon kaj
okulojn.....

Finiĝis masakro de la
loĝantoj. Post tio ne okazis
enbuska atako al ni, kaj ni
povis reveni al Japanio vivaj.
Kiel vi pensas pri tio?

Eble vi jam aŭdis, por kio ni
militas. “Por paco de Orienta
Azio, por konstrui la Grandazian
Aŭtarkion.....”

Jes, ja belaj sloganoj !

Sed ni ne povas militi per
tiaj vortoj. Milito estas inter-
mortigado. Se ni ne mortigas,
malamiko mortigos nin.

昼間は我々の遊び相手になっていた女子供たちが、こちらの様子を敵に知らせていたんだ。

敵のスパイとわかったら、女子供でも殺さねばならん。そうしないとこちらが殺される。それが戦争だ。

その後のベトナム戦争、アフガニスタン、イラクなどでも、米軍、NATO軍など（住民から見れば侵略者だろう）による誤爆、住民虐殺が時々報道される。

やはり事情は同じもの、と感ずる。あの時の鈴木教官の言葉は 侵略者側の軍人として住民を敵として任務を遂行する辛さを話していたんだ、と今は考えられる。

La geknaboj kaj virinoj de la vilaĝo, kiuj ludis kun ni ŝajne amike, informis malamikon pri nia stato.

Se klarigis, ke ili spionis nin, ni devas mortigi eĉ geknabojn kaj virinojn. Se ne, la malamiko mortigos nin. Tio estas milito.

Ankaŭ ĉe poste okazintaj militoj en Vjetnamio, Afganio, Irako k.a. oni informis bombardojn kaj masakrojn al tieaj loĝantoj fare de armeoj de Usono kaj NATO, invadintoj al la loĝantoj.

La situacio estas tute sama, mi pensas. Nun mi povas kompreni... Tiamaj vortoj de kapitano Suzuki estis konfeso de lia kordoloro plenumi taskon de invadanta armeo kiel malamiko kontraŭ la loĝantoj.

Internacia Tago de la Gepatra Lingvo

en la Internacia Jaro de Indiĝenaj Lingvoj(1)

国際先住民族言語年における国際母語の日(1)

Hirojuki JOKOJAMA, kunlabore kun HOŜIDA Acuŝi

La 21-an de februaro 1952 la polico pafmortigis en la universitato de Dako (Orienta Banglujo), ĉefurbo de la hodiaŭa Bangladeŝo plurajn manifestaciantajn studentojn.

Tiuj studentoj manifestaciis por ke oni agnosku la ekziston de ilia gepatra lingvo, la bengala (bangla / bn / বাংলা ভাষা), kiun oni volis forigi de la universitato favore al lingvo "pli granda", parolata de la fortuloj de tiu momento.

1952年2月21日に、現在のバングラデシュの首都であるダッカ（東ベンガル）の大学で警官がデモをした学生に発砲しました。これらの学生は、母語であるベンガル語の存在を認めるようにデモをしました。この大学では、当時強い立場にある者が話していた「より大きな」ことばが有利となるようにベンガル語をなくそうとしていました。

Temas pri io, kio ripetiĝas, en diversaj formoj, daŭre tra la tuta mondo kaj tra la tuta historio, ne nur en Azio, sed ankaŭ en aliaj kontinentoj, kiel en pluraj eŭropaj landoj, kaj tute aparte en pluraj ekstereŭropaj kontinentoj rilate al la indiĝenaj lingvoj, al la lingvoj de la praloĝantoj. Tio praktike okazas ĝenerale per la streboj, devigoj, iamaniera altrudo de la uzo de lingvo, plejparte de la angla, fare de iu ekonomia, politika aŭ militismema, ŝtata grandpotenco, por fortigi sian pozicion en la mondo - malfavore al la lokaj gepatraj lingvoj. "Mi estas la fortulo, vi silentu, aŭ eventuale, se vi volas paroli, vi parolu mian lingvon".

ここで問題になっているのは、アジアのみならず、ヨーロッパのいくつかの国やその他の大陸でも、世界じゅうで全歴史にわたり、色々な形で繰り返し行われている先住民・原住民の言語に対する対応です。問題の多くは、ほかの言語（多くの場合、英語）の学習のために行った多大な努力や使用の義務や強制についてであり、これは経済的・政治的・軍事的な力を持つ権力が原因であり、自分の国際的地位を高めようとして地域の母語を軽視します。「私は強い立場にあるので、あなたは黙るか、話したい時は、私のことばで話さない。」

Tiel okazas iom post iom la malapero, morto de lingvoj, kaj tutaj popoloj perdas sian grandan intelektan riĉecon - kiel pri tio atentigas ankaŭ multaj lingvistoj, kaj en 2019 aparte atentigas UN kaj Unesko. En mesaĝo al Universala Esperanto-Asocio en 2018, Audrey Azoulay, ĝenerala direktoro de Unesko diris: "Ni devas defendi la lingvojn, ĉefe la maloftajn lingvojn, la indiĝenajn lingvojn, pri kiuj ni scias, ke ili malaperas nuntempe laŭ la ritmo de po unu ĉiujn du semajnojn - kio estas neriparebla perdo por la homa heredaĵo. Ni devas defendi ankaŭ la plurlingvismon en la instruado, per adekvataj publikaj politikoj, sed ankaŭ en la virtuala spaco de la interreto, por ke plu vivu la lingva kaj kultura diverseco de ĉiuj homgrupoj; por ke ĉiu povu lerni pri sia historio, sia identeco, ĉerpante el la simbolaj fontoj de sia origina etno." [1]

言語の死…消滅が少しづつ起きています。その言葉を使っていた人々は、多くの言語学者も指摘するように、すばらしい知識の宝庫を失います。2019年には国連とユネスコはこのことについて特別に注意を喚起しています。2018年の世界エスペラント協会へのメッセージでは、ユネスコ事務局長であるオードレ・アズレが次のように表明しています:「私たちは言語を守らねばなりません。それは主に先住民族の言語のようなまれにしか使われない言語についてです。それらの言語は、現在、2週間に1つのペースで消滅していることを私たちは知っています。これは人類の遺産にとっては修復のできない損失となります。」

私たちは、教育の中で、多言語主義を守らねばなりません。それは、適切な公的な政策の中だけではなく、インターネットのバーチャルスペース（仮想的空間）でも同様です。このことは、すべての人間集団の言語と文化の多様性がこれからも維持され、誰でも自分の民族の歴史やアイデンティティ（自己同一性）を、民族のシンボルとなる起源から会得し学ぶことができるようにするためです。」

Krom la socia maljusteco kaj psikologiaj problemoj rezultantaj el la perdo de uzeblo de sia gepatra lingvo, kaj pro nesufiĉa sperto en la uzo de la altrudata lingvo, necesas konscii ankaŭ pri aliaj faktoj: la biologia kaj lingva diversecoj estas nedisigeblaj, interkonektitaj kaj dependantaj unu de la alia. El perdo de lingva diverseco rezultas perdo de tradiciaj konoj esence necesaj por daŭripova biodiverseco, por la vivo. (Fina deklaro, 64a UN-NRO-konferenco, Bonn, 2011 [2], Terralingua [3])

母語が使えなくなることや押し付けられた言語を十分に使いこなせないことから生じる社会的な不公平と心理学的な諸問題のほかに、次のような事実も意識することも必要です：それは、生物学的な多様性と言語の多様性は、相互に依存する関係にあり、別々には考えられない、ということです。言語の多様性を失うと、生き残るためにそして、持続できる生物学的な多様性のために必要な伝統的な知識を事実上失うこととなります。(最終宣言、第64回国連・NPO・会議、ボン、2011[2]、テラリングワ（地球語）[3])

-Daŭrigota-

-次号へ続く-

Danke ricevitaĵoj (星田淳扱い一、読みたい方はご連絡ください)

* Vojo Senlima: N-ro 179, Junio 2019, 熊本エスペラント会、A4X6 頁の内 Esp.文 2 頁は巻頭記事 La 92a Kongreso en Kjuŝu brilis kiel internacia etoso/HARADA Tsukuru, 「第 28 回国際合宿(韓国)に参加して/橋本奈々」はカラー写真 3 枚入れてほぼ 2 頁。「広めたい平和のことは、エスペラント……/畠田ミツ子」

* Mejlŝtono: 仙台 E.会、2019 julio n-ro 273, B5X8 頁のうち E.文 4 頁半。巻頭記事は「第 39 回仙台緑の合宿(6月末)。“Aŭskultinte la Prelegon de s-ino Chang Sumi ---/SAITO Tume” は5月の関東大会での講演について。“Historio rilatanta al Hokkajdo/OOKOŜI Keiji”には北海道のアイヌ語地名の説明も。

* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 350/ julio 2019, Internacia Gazeto de Esperanto Jokohama(Hama-Rondo)/エスペラントよこはまのエスペラント文会報, A4X4 頁。巻頭記事は“Muzeo/Oficejo-Projekto ----/Sibayama Zyun'iti”で“Esperanto -muzeojn tra la mondo”の中見出し付き。「エスペラント館」計画について。「115 回読書会」は Trevor Steele の“Australia Felix”について。

* La Tamtamo; 第 522 号、2019 年 7 月号、NPO 法人エスペラントよこはま会報。A4X8 頁、日本文。活動報告など、いつもながら多い。6 月のハマロンダ・ベスペーロは「長谷川テル〜その生き方/土居智江子」。エスペラントよこはまの 7 月中旬〜10 月の予定表には 28 件の予定が並んでいる。

* Ponteto(Bulteno de Esperanto-

Ligo en Regiono Kantoo) Julio 2019, n-ro 295 B5x24 頁のうち E.文 9 頁強。トップ記事は「中程度の成功だった第 68 回関東エスペラント大会/堀泰雄」。“Resumo de la Prelego de s-ino Chan/Tanigaŭa Hiroŝi”は関東大会での講演「朝鮮半島の平和と日本」。「ザメンホフと 3 人の独裁者/大庭篤夫」が連載開始。「論語世界語訳/SASAKI Ter-Ruhiriŝo」連載中。“Raportoj el Kunming, Ĉinio/Alessandra Madel -la”, 「宮崎市、八紘一宇の塔/堀泰雄」。最後のページに「文芸コンクールに参加しよう/堀泰雄」が出ている。

* 受講生通信; 第 185 号、2019-08-01, 沼津エスペラント会、A4X12 頁のうちエスペラント文約 2/3 頁。行事予告欄にEPA夏季合宿(札幌)、北海道エスペラント大会。札幌の中級受講生のたより、韓国でのSAT-anoj との交流の話など。

* La Movado: 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行、N-ro 822 aŭgusto 2019, B5x20 頁のうち E.文 4 頁半。巻頭記事は「第 50 回林間学校にご参加を」。Kajero *Libervola* は Kio estus necesa por ke KEK estu daŭrigebla?/FUKUDA Makoto”は持続可能な大会の考え方。書評は Mikaelo Bronŝtejn の Sortoj Frakasitaj, スターリン時代の犠牲になったエスペランティストたちについて。「日韓の国際行事が育んだもの」は連載 4 回目。Movado 欄にEPA夏季合宿(8月、札幌)の予告。

* La Informilo de Nagoja Esperanto-Cetro/センター通信 293 号、2018 年 8 月 7 日、名古屋エスペラントセンター発行、B5X18 頁のうちエスペラント文 7 頁は La urbo Rem-

so(名古屋の姉妹都市の説明)、
Kastelo de Nagojo(名古屋城)、と
KANEKO HUMIKO KAJ MI/Naka-
yama Akiko。「東海エスペラント大
会へ集おう」の記事に来賓ミカエロ・
ブロンシテインの紹介、写真も。

* La Movado:関西エスペラント連盟
(KLEG)発行、N-ro823 septembro
2019、.B5x16 頁のうち E.文 5 頁半。
巻頭記事は”Pri mia vojaĝo el
Brazilo, tra Japanio, Aŭstralio
Kaj nia vasta mondo/Ago FEI-
TOSA”. Salono 欄に「西国三十三
か所の御詠歌/江川治邦」。連載中
の「日韓の国際行事が育んだもの/
堀田裕彦」は今回(5回目)で終わ
る。

* sferilo2019septembro
2019/9 月号 電子受信
米国サンフランシスコ周辺の Esp.組
織 (SFERO) の機関誌(9月号)。
9月7日の例会予告。と8月例会の
報告:会合の後金門橋公園の日本
庭園へ ekskurso のあと japana

teejo で食事。

* La Tamtamo; 第 523 号、2019 年
9 月号、NPO 法人エスペラントよこは
ま会報。A4X8 頁、日本文。トップ記
事は「博物館/事務所構想の推進を
決議—臨時総会報告—」。11 月の
特別講演会予告:講師は Mikaelo
Bronštejn, だがテーマ未定。学習
会で読んでいる本は”Tamen ĝi
Movigas!”, “Ls Ŝtona Urbo”,
“Kniberto kaj Kilevamba”,
“Silento(沈黙)”, “Utila Estas
Aliĝo”, “Esperanto laŭ metodo
Friis”。

* Novaĵoj Tamtamas; n-ro 351/
septembro 2019,Internacia Gazet
o de Esperanto Jokohama(Hama-
Rondo)/エスペラントよこはまのエス
ペラント文会報,A4X2 頁。巻頭記事
は La Tamtamo 523 号の巻頭記事
と内容。Leteroj 欄には Trevor
Steele, Josip Pleadin, Jose
Antonio Vergara からの 3 通。

Protokolo de la 6-a Komitato Kunsido de HEL/Kasjaro 2019

2019年度 第6回委員会 議事録

日時：2019年7月14日（日） 10:00～12:00

場所：札幌エルプラザ2階 会議コーナー（12名用）

出席者：横山（司会）、後藤（純）、後藤（義）、山下、星田（記録）、宮沢、立木

【組織】

前回と同じ：

正会員 28、購読会員 5、青年会員 2、家族会員 1。

【財政】

初夏合宿関係 収入 ￥ 8000、 支出 ￥14367

【広報】

・HP アクセス数累計：592,824件（2ヶ月前比+299）

・メールマガジン

次の通り発行された。

国際共通語 エスペラント Lingvo internacia, Esperanto.

第175号 2019年6月23日 不定期発行（金曜日目途）

日本エスペラント協会の機関誌の記事「ことばの質問箱」紹介。

◎HEL 行事の案内（6月末の初夏合宿の紹介）

発行部数は600。

【情報・宣伝】

・初夏合宿：「どうしん生活情報版さっぽろ10区（トーク）」にの記事が（8.21）出たが、

反応はなかった。チラシはエルプラザ、かでの2・7、チカホ、北大構内に出した。

北大構内には何かあるごとにビラを貼るようにしたい（宮沢）。

【教育・研究】

・初夏合宿に協力ありがとうございました、SESの会合にも参考になったとの意見がある（後藤（純））。

・札幌E会（後藤（純））：“De Patagonio gis Alasko”残り20頁ぐらいになった、次のテキストを考えることになる。

・Rondetago（宮沢宅）：横山・宮沢両委員の勉強会は毎週継続中、ロシア革命3部作を読んでいる。

・北大Esp. 研究会：S-r o川谷の指導で「人魚姫」を読んでいる。

【機関誌】

・7月14日、「Heroldo de HEL」n-ro184を85部発行した。全28ページ
プラスはさみ込み資料2頁（星田）。

・機関誌発行について上記「はさみ込み資料」

” Heroldo de HEL” 編集作業の引継ぎ案について説明（横山、立木）

以上に対する対案：La Movadoの発行体制に参加して合同機関誌に合流するという案について宮沢委員から説明があり、賛成1、反対6、で否決された。

これによりこの次のN-ro 185までは星田委員が編集発行しN-ro186からは上記「編集作業の引継ぎ案」によってHEL事務局長が機関誌編集を引き継ぐ

【年間計画】

・北海道大会：次回委員会の機会に大会議案書を作成するので各委員は担当部門について原稿を星田委員に送る。（ただし、とりまとめ編集は立木事務局長が行う）

【次回委員会】

・2019年9月22日（日）13:00より、札幌エルプラザ2階会議コーナー小（12人用）。同日午前機関誌と大会議案書の印刷を行う。

[編集後記/Redaktanto parolas]

*配属将校・鈴木教官の敵性住民殺害報告（10頁）は8月14日の道新の投書欄に出た「敵性住民殺した」教官証言“の原文、初夏合宿の6月29日夜飲み屋で話した内容です。新聞紙面では400字に制限され、どうしても舌足らずの感じになるので、ここでは初めに書いた全文を出しました。

*「サマルカンドへ手紙を」とメールを送ってきた(5頁) Anatolij Ionesov はサマルカンドで平和博物館の活動をしています。ウズベク人はトルコ語に近い言葉話すアジア系の民族。ちょうど道内のウズベク人留学生の投書が道新に出ていたので紹介しました。

*EPA 夏季合宿では韓国から4人の参加があり、いつものように各人いろいろな芸達者な人で楽しく学び、交流できました。ちょうど「日韓関係」が怪しくなってきたころ。

我々の間では何も問題は…… 「政治家にもエスペラントをやったもらわな
いといかん」という話も出ました。

*-----

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000 円、 青年会員(26 歳未満) 1500 円、
購読会員 2000 円、 家族会員、 失業者など割引 1000 円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO	北海道エスペラント連盟
* Redaktas la Organa Fako de HEL ĉe HOŜIDA Acuŝi	* 編集：連盟機関誌担当 053-0844 苫小牧市
Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI 053-0844 JAPANIO	宮の森町 2-18-18 星田 淳 方
TEL-FAKS: 0144-74-2539	Retadreso: hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp
* Sekretario: ĉihaja TAĈIKI	* 事務局：立木ちはや
N-ro 100, Simin-Katudô-Sapôto-Sentâ Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3, Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio	060-0808 札幌市北区北 8 条 西 3 丁目 札幌エルプラザ 市民活動サポートセンターレターケース 100
TEL: 08033964713 (立木)	
Retadreso: belaj.akaroj@gmail.com (立木)	
* TTT-ejo: http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm	
* Poŝtgirkonto(郵便振替) : 02700-6-17075	